

山里川海の一体保全に寄与することを目的に、一般社団法人グリーンバナー推進協会は大自然のなかや一次産業の現場で調査や保全活動を続けております。その現場から、特に気になるトレンドや現象を連続レポートでリアルにお伝えしたいと思います。第7回目は「一体保全とSDGs」をテーマに現場の姿と声をお届けします。



関西国際空港から車で30分圏内にある日根荘園

誰しも重要性を認める一体保全を誰がどう持続的に実施できるのか

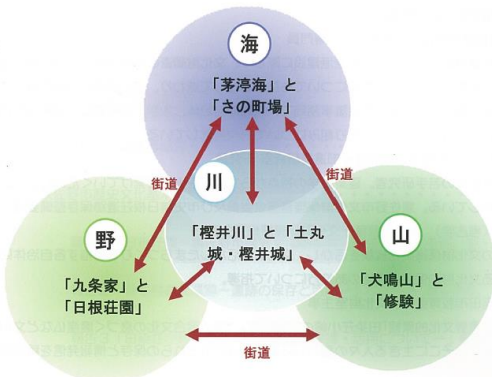
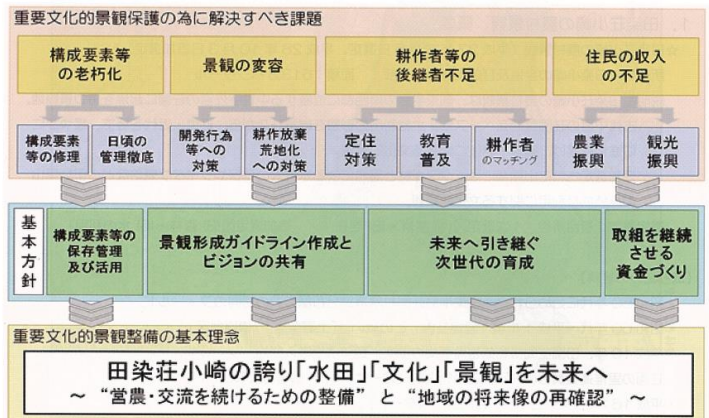
グリーンバナー推進協会の活動目的である山里川海の一体保全について、世界の玄関口・関西国際空港のある泉佐野市でも動きが活発になってきました。

一体保全の重要性については異論がないところですが、問題は誰がどのようにすれば持続的な実施が可能になるのかという点です。山間部や海をもつ多くの自治体において議題として挙がるのは、経済性については観光や物産のブランド化、人材については体験農業など市民や観光客の参加、教育については子供の環境学習や生涯教育などです。

泉佐野市は、海に浮かぶ人工島の関西国際空港と対岸の近代的な街が有名ですが、里にいけば上記写真のとおり中世から残る貴族の荘園があり、さらに山中には修験道の聖地「犬鳴山」があります。臨海部がインバウンド客で賑わう一方で、里や山は高齢化や予算不足で維持することも困難なのが実情です。補助金頼みでは成立しないことは明白で、文化的価値の再構築や広報体制の見直し、観光客の呼び込みや物産のブランド化などを一体化した戦略で捉えた取り組みが始まっています。

自然・歴史・文化を一体で捉え財源と人材の課題に挑戦

【田染荘小崎の農村景観 課題・方針・理念のチャート】



海・川・野・山が育んだ「泉佐野の文化」の誇りを未来につなぐ4つのテーマ

上記左の図は自然・歴史・文化を一体で捉えた泉佐野市の資料です。テーマ単体ではなく一体で取り組むことで「シビックプライド」を喚起しやすくなり、市民の参加性が高まれば観光や物産のブランド化にも好影響が出てきます。また、右の図は、大分県豊後高田市の田染荘における課題・方針・理念のチャートです。クヌギ林と溜池による水資源の確保、シイタケ栽培など里地里山の持続的利用、水田も含めた文化的景観の創造など、先駆的な取り組みに成功しています。

自然と人が助け合える環境づくりのために

政府が掲げる2019年度の地方創生促進交付金では、「SDGs」に関わる予算編成が目立つようになりました。詳細は下記の水色の枠内の通りですが、「サステナブル=持続可能」が国連加盟国共通のキーワードになったということです。設定された17のゴールは自然環境から人権や教育まで幅広い分野に及びます。各自治体においても敏感にSDGsが政策に取り込まれつつあり、前述の泉佐野市では市民に対するSDGs教育、観光事業や一次産業・製造業へのSDGsの取り込みはもちろん、SDGsタウンをエリア設定して、それを実行可能にする国家戦略特区の検討がはじまりました。

丘陵緑地のなかにエリアを設定し、電気・ガス・水道などの既存インフラから切り離された住宅や工場や物流基地を誘致することで里山地域でも将来にわたり生活が持続できるようにする試みです。地域の社会問題になっている間伐材や竹や生ごみを燃料とする熱供給、最新型の太陽光発電システム、地域完結型の上下水道システムなど必要な技術やシステムは既に存在しており、これらを効果的にインテグレートすれば実現可能という考え方です。この計画はまだ始まったばかりですが、20年後には多くの自治体の中山間部でインフラが破綻することが予測されているだけに注目されるプロジェクトです。

人にも自然にも「サステナブル=持続可能」な社会をつくることは、当協会の目標そのものでもありますので、私たちも引き続きできる限りの協力をしてまいります。


国連サミットで採択された「SDGs」17のゴール 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」

SDGsには17のゴールがありますが、そのうち自然に関わる目標をまとめたのが下記の図です。目標2、6、13、14、15と5つのゴールにわたっています。日本の政府や経済界においては昨年から特に取り組みが本格化しており、今年は政治・経済の最重要テーマのひとつになる見込みです。

【SDGsとは】

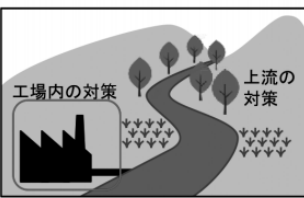
2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。






企業と自然資本

- **目標6「水と衛生」**
 - 排水処理
 - 森林・農地保全
- **目標15「陸上資源」**
 - 工場緑化
 - 森林・農地保全
- **企業内対策では限界**




5



農林水産業と自然資本

- **自然資本を支える農林水産業**
 - 安全な食料(目標2)
 - 水質保全(目標6)
 - 温暖化対策(目標13)
 - 海洋資源の保全(目標14)
 - 森林資源の保全(目標15)
- **自然資本の危機**
 - 高齢化により農山村が危機的状況
 - 農林水産業だけでは維持が困難
 - 社会全体で自然資本を支える必要



6

(京都大学大学院農学研究科教授・栗山浩一氏の発表資料から引用)